

審判上の注意

1. 本大会は、2022年度（公財）日本バレーボール協会6人制バレーボール競技規則に基づき実施する。
2. 試合は、全試合ワンボールシステムで行う。
3. 試合中のワイピングについては、コート上の選手自らが速やかに行うこと。ただし、タイム・アウト中のセット間は、チーム交替選手もしくはベンチスタッフがモップを使用しても良い。
4. 選手交代は、全試合、クイックサブスティチューション制を採用する。
5. リベロプレーヤーについては、競技規則19の規定に準ずることとする。

① 服装

リベロはチームのほかの選手と、主要な部分の色が異なるユニフォームを着用しなければならない。ユニフォームの色は、チームのほかの選手とは明らかに対照的でないなければならない。

② 不法なリベロリプレイスメント

不法なリベロリプレイスメントは、不法な選手交代と同様とみなされ、不法なリベロリプレイスメントが次のラリー開始前に発見された場合は、要求は認められずチームに遅延行為に対する罰則が適用される。

また、サービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置が適用される。

③ 新しいリベロの再指名

リベロは負傷や病気、退場、失格によりプレーをすることができなくなることがある。また、監督または監督が不在の場合にはゲームキャプテンは、いかなる理由であってもリベロがプレーできなくなったことを宣言することができる。このように、リベロがプレーできなくなった時や、プレーできなくなったと宣言された時には、コートにいない1人の選手を新たなリベロとして再指名することができる。再指名された新たなリベロは、その試合を通して、リベロとして競技しなければならない。また、元のリベロは、その試合の残りはプレーすることができない。

6. ネットへの接触

- ① ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。ボールをプレーする動作の中には、（主に）踏切からヒット（またはプレーの試み）と安定した着地、新たな動作への準備が含まれる。
- ② 相手チームのプレーを妨害しない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナの外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。
- ③ 選手の（主に）次のような行為は、プレーに対する妨害となる。

- ・ボールをプレーする動作中に、両アンテナ間のネット、またはアンテナに触れること。
- ・支持を得たり、身体を安定させたりするために両アンテナ間のネットを使うこと。
- ・ネットに触れることにより、相手チームに対して、自チームが有利な状況を不正に作り出すこと。
- ・ネットをつかんだり、握ったりすること。

7. 少人数で登録したチームが負傷による原因で、不完全なチームになることの救済処置
正規の選手が負傷したとき、リベロ以外に交代する選手がいない場面は、リベロを正規の選手として指名して試合を続行することができる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 登録7名の内、リベロ1名の場合
リベロを正規の選手に指名することができる。② 登録8名の内、リベロ2名の場合
リベロ2名のうち、どちらかを正規の選手に指名することができる。
ユニフォームについては、正規の選手に指名されたリベロが可能な限り正規の選手と同じユニフォームを着用すること。それが不可能な場合は、リベロがビブスを着用すること。 |
|--|

8. その他

- ① チーム構成は、最大12名の選手（リベロ除く）で構成し、リベロを採用するときには、2名まで登録することができる。
- ② タイムアウトを要求するときは、ハンドシグナルを明確に示すこと。
- ③ 審判割り当てのある試合の役員（副審・記録員2名・ラインジャッジ4名・点示2名または4名）をチームから出すものとする。